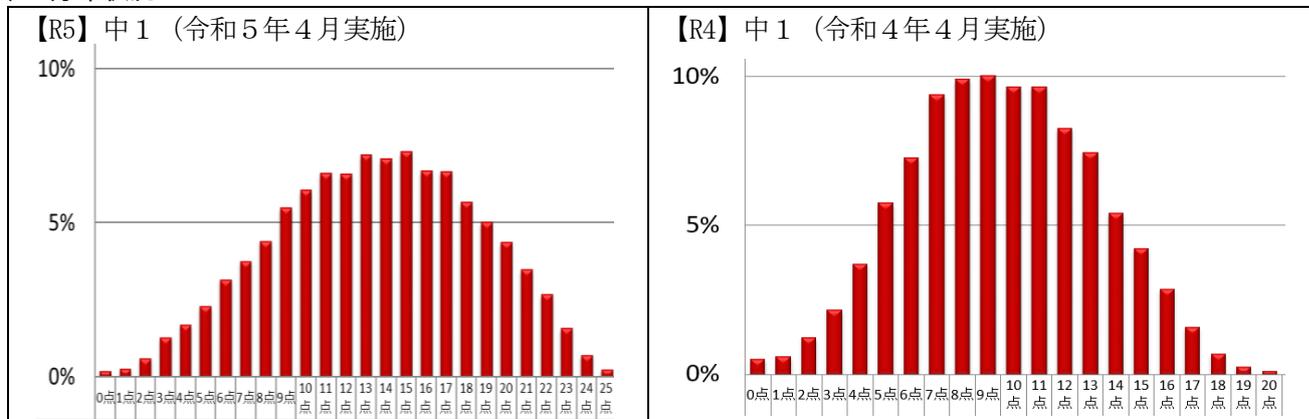


授業改善の手引 中学校第1学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度から問題数を5問増やし25問、正答数の最頻値は15問、平均正答数は13問です。平均正答率は54%、正答数の最頻値より高い正答の割合は50%、低い正答の割合は40%です。

(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率	
	()はR4新入生学調	
[知識及び技能] (7問)	61%	(38%)
[思考力, 判断力, 表現力等]「A話すこと・聞くこと」(4問)	65%	(67%)
[思考力, 判断力, 表現力等]「B書くこと」(6問)	52%	(47%)
[思考力, 判断力, 表現力等]「C読むこと」(8問)	44%	(42%)

(3) 結果概要

- 小問ごとの正答率において、「1(2)話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く」問題が82%、「2(7)日常使われる敬語を正しく使う」問題が80%で、比較的正答率の高い結果となりました。
- 領域等においては、[思考力, 判断力, 表現力等]「B書くこと」が52% (+5ポイント)と昨年度を上回り、「A話すこと・聞くこと」が65% (-2ポイント)、「C読むこと」が44% (+2ポイント)と、昨年度と同程度の結果となりました。[知識及び技能]について、61%と昨年度を23ポイント上回ったことは、言語活動の中で活用することを意識した指導の成果と考えられます。
- 経年比較問題となっている「3(2)描写を基に、登場人物の心情を捉える」問題が55% (+18ポイント)と昨年度を上回ったことは、登場人物の心情について、登場人物相互の関係に基づいた表現の仕方等に注目して読むことの指導の成果と考えられます。
- 経年比較問題となっている小問ごとの正答率においては、「4(4)文章の構成を捉えて読む」問題が29% (-15ポイント)と昨年度を下回り、指導の工夫が必要な状況にあります。
- 経年比較問題の、「4(3)目的に応じて、必要な情報を捉える」問題が39% (-2ポイント)、「5 根拠に基づいて自分の考えを書く」問題が31% (+2ポイント)と、それぞれ昨年度と同程度の結果となっており、課題が継続しています。

小問正答

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)									
大問	中問	小問	連番						1	2	3	4	5	6	9	0		
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答		無回答		
1	(1)	1		話の進め方や質問の仕方の工夫を理解する。	5・6年 思 判 表 A(1)工	話聞		78	7	78	11	4	0	0		0		
	(2)	2		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	5・6年 思 判 表 A(1)工	話聞		82	11	4	82	2	0	0		0		
	(3)	3		目的や意図に応じたインタビューメモの工夫を理解する。	5・6年 思 判 表 A(1)ア	話聞		64	23	11	2	64	1	0		0		
	(4)	4		話の要点や内容を正しくおさえる。	5・6年 思 判 表 A(1)工	話聞		37	13	22	26	37	1	0		1		
2	(1)	5		第5学年配当漢字「留まり」を正しく読む。	5・6年 知 技 (1) 工	言葉		76	0	0	0	0	22	76		2		
	(2)	6		第5学年配当漢字「効」を正しく書く。	5・6年 知 技 (3) 工	言葉		82	0	0	0	0	12	82		6		
	(3)	7		第5学年配当漢字「断」を正しく書く。	5・6年 知 技 (1) ウ	言葉		40	0	0	0	0	44	40		16		
	(4)	8		熟語の構成を意味との関わりから理解する。	3・4年 知 技 (1) 工	言葉		77	6	77	7	7	2	0		1		
	(5)	9		文の構成について理解する。(主語と述語)	3・4年 知 技 (1) 力	言葉		46	0	0	0	0	53	46		0		
	(6)	10		文脈に沿って、漢字を適切に使う。	5・6年 知 技 (1) 工	言葉		27	0	0	0	0	46	27		27		
	(7)	11		日常使われる敬語を正しく使う。	5・6年 知 技 (1) キ	言葉		80	0	0	0	0	17	80		3		
	(8)	12		目的や意図に応じた書き方の工夫を捉える。	5・6年 思 判 表 B(1)ウ	書		72	9	8	72	10	1	0		1		
	(9)	13		文章全体の構成や書き方に着目して文章を整える。	5・6年 思 判 表 B(1)オ	書		62	62	4	14	20	1	0		1		
	(10)	14		文章全体の構成や書き方に着目して文章を整える。	5・6年 思 判 表 B(1)オ	書		41	0	0	0	0	53	41		7		
3	(1)	15		叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える。	3・4年 思 判 表 C(1)イ	読		42	0	0	0	0	45	42		13		
	(2)	16		描写を基に、登場人物の心情を捉える。	5・6年 思 判 表 C(1)イ	読	経年・活用	55	12	9	22	55	1	0		2		
	(3)	17		描写を基に、登場人物の相互関係を捉える。	5・6年 思 判 表 C(1)イ	読	経年・活用	28	0	0	0	0	52	28		20		
	(4)	18		表現の仕方を捉えて読む。	5・6年 思 判 表 C(1)エ	読		42	24	42	18	12	1	0		3		
4	(1)	19		目的を意識して、中心となる語を見付けて要約する。	3・4年 思 判 表 C(1)ア	読		44	0	0	0	0	38	44		18		
	(2)	20		目的に応じて、必要な情報を捉える。	5・6年 思 判 表 C(1)ウ	読		71	5	71	10	9	1	0		4		
	(3)	21		目的に応じて、必要な情報を捉える。	5・6年 思 判 表 C(1)ウ	読	経年・活用	39	0	0	0	0	40	39		20		
	(4)	22		文章の構成を捉えて読む。	5・6年 思 判 表 C(1)ア	読	経年	29	8	13	36	29	1	0		13		
5		23		資料から読み取ったことをまとめて書く。	5・6年 思 判 表 B(1)ウ	書	経年	61	0	0	0	0	17	61		22		
		24		根拠に基づいて自分の考えを書く。	5・6年 思 判 表 B(1)ウ	書	経年・活用	31	0	0	0	0	44	31		26		
		25		段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	5・6年 思 判 表 B(1)イ	書		47	0	0	0	0	29	47		24		
全体正答率								54										

2 指導のポイント

(1) 話し手の目的に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、自分の考えをまとめる学習を大切にしましょう。

ア 問題の概要

1 (4) 話の要点や内容を正しくおさえる。

第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕A「話すこと・聞くこと」(1)エ 正答率 36.7%

イ 誤答分析

誤答を分析すると、26%の生徒が選択肢の「3」を選んでいました。これは、「インタビュー準備メモ」の「浅野さんにとって『写真』とは？」の記述に着目した解答と考えられます。しかし、この問題では、準備メモの内容だけではなく、直前の「浅野さんの発言を受けて」の質問となります。浅野さんの話の要点が「コンクールに向けて新たに学んだ技術や知識」と捉えられなかったことが誤答の要因と考えられます。

この問題では、話し手の目的や自分の聞こうとする意図に応じて、話の内容を理解する力が求められます。特に、話し手の目的や、自分に伝えたいことは何かを踏まえて、自分の考えをまとめるような学習過程が必要です。

ウ 指導上の留意点

(ア) 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、自分の考えをまとめる目的に応じて必要な内容を質問しながら聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉えて自分の考えをもつことについては、小学校第3学年及び第4学年（「A 話すこと・聞くこと」の指導事項エ）で学習しています。このことは、中学校第1学年（「A 話すこと・聞くこと」の指導事項エ）の、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、話の内容を正確に理解するために、話し手が自分に伝えたいことや共に考えたいことは何かなどを踏まえ、必要に応じてメモをしたり、質問をしたりする経験を積み重ねることが大切です。

(2) 要旨を把握するために、文章全体の構成を捉えることの必然性を生徒自身が自覚できる言語活動を工夫しましょう。

ア 問題の概要

4 (4) 文章の構成を捉えて読む。

第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」(1)ア 正答率 28.8%

イ 誤答分析

誤答を分析すると、36%の生徒が選択肢の「3」を選んでおり、問題文の前半部分を問題点、後半部分をその解明と捉えた傾向が見られました。1、2段落の「電話やお店で人を呼ぶときの呼びかけ」を具体例と捉えられなかったことが要因であると考えられます。また、6段落の「このように」、「挨拶をするときは」、「必要があります」などの言葉に注目できていないために、筆者の考えの中心が捉えられていないことも考えられます。

この問題では、事実と感想、意見などの関係を、叙述を基に押さえながら、文章全体の構成を捉える力が求められます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することについては、小学校第5学年及び第6学年（「C 読むこと」の指導事項ア）で学習しています。このことは、中学校第1学年（「C 読むこと」の指導事項ア）の、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、要旨を把握するために、文章全体の構成を捉えることの必然性を生徒自身が自覚できるような言語活動を工夫することが大切です。その際に、自分がどのように文章の構成を捉えて要旨をまとめたのかを説明したり、複数の文章の構成を比較し、その違いについて交流したりする学習活動が考えられます。

- (3) 登場人物の心情について、登場人物相互の関係に基づいた表現の仕方に着目して読むことのできる言語活動を位置付けましょう。

ア 問題の概要

3 (3) 描写を基に、登場人物の相互関係を捉えて読む。
第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」(1)イ 正答率28%

イ 誤答分析

無解答率は20%でした。誤答を分析すると、「解けていく」という表現が、「新」が「朔」との対話(質問)を通して「言いたいことが明確になっていく」ことに結びついていない解答が多く見られました。これは、「新」の気持ちに変化した要因を、「朔」との関係に基づいた行動や会話、地の文などから捉えていないことが原因であると考えられます。

この問題では、登場人物の相互関係や心情の変化などについて描写を基に捉える力が求められます。そのため、登場人物の相互関係に基づいて、登場人物の心情を直接的あるいは暗示的に表現している複数の描写をもとに捉える力に課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることについては、小学校第5学年及び第6学年(「C読むこと」の指導事項イ)で学習しています。このことは、中学校第1学年(「C読むこと」の指導事項イ)の、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、登場人物相互の関係を捉えた上で、行動や会話、情景などの描写に着目しながら読み進めていくことが大切です。例えば、物語の魅力について登場人物の描かれ方を中心にまとめて伝え合う言語活動などに取り組む中で、相関図で登場人物の関係性を捉えたうえで、直接的または暗示的に表現されている登場人物の心情を、どの描写に着目し、どのように捉えたのかについて検討する学習過程にするなどの工夫が考えられます。

- (4) 複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、自分の考えの根拠となる事柄を捉え、根拠を明確にして書く学習を大切にしましょう。

ア 問題の概要

5 条件② 二つの資料から読み取ったことを根拠にして書く。
第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」(1)ウ 正答率31%

イ 誤答分析

誤答の多くは、条件②「一段落目で書いた自分の考えの理由や根拠となる内容として、【資料A】と【資料B】の両方から読みとったことを書くこと」に反して、どちらか一方の資料のみに着目し、2つの資料を関連させていないものや、提示されている二つの資料から読み取ったことではなく自分の体験したことや経験したことを基にして理由や根拠を挙げているものでした。

この問題では、複数の資料から適切な言葉や数値を用いて記述する力や、それらを関連付けて自分の考えを明確にする力が求められます。文章と図表という種類の異なる資料から読み取った情報を基に、それらの情報を比較し関連付けながら根拠を明確にして考えを形成することに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見などを区別して書いたりなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、小学校第5学年及び第6学年(「B書くこと」の指導事項ウ)で学習しています。このことは、中学校第1学年(「B書くこと」の指導事項ウ)の、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することの学習につながります。

(イ) 指導に当たっては、提示された複数の資料の情報を正確に捉えたうえで、自分の考えとそれらの情報がどのような関係になっているのかを明確にすることが大切です。その際、複数の資料を一度に読み取らず、一つずつ資料から分かる事柄を読み取る段階、複数の資料を関連させる段階、複数の資料を根拠に自分の考えをまとめる段階というように、生徒の思考の流れに沿った学習の展開にするなどの工夫が考えられます。

【要旨を把握するために、文章全体の構成を捉える学習過程を位置づけた展開例】

教材例 ・ R 5 新入生学調問題文

- ・「ちょっと立ち止まって」(光村図書 1年)
- ・既習の説明的な文章(小学校の教材も含む)

《単元計画》

◆ 単元で取り上げる言語活動

説明的な文章の要旨をまとめ、筆者の考えがよく分かるように伝え合う。

(関連：[思考力, 判断力, 表現力等] C(2)ア ※第1学年)

1 学習の見通しをもつ。

○学習課題を共有する。

筆者の考えがよく伝わるように要旨をまとめて説明しよう。

○課題解決の方法を考える。

- ・「ちょっと立ち止まって」を例に、要旨を把握するために必要なことを確認し、文章構成図を作成する。
- ・筆者の考えがよく伝わるように、文章構成図の内容から必要な情報を取り出し、要旨をまとめる。

2 文章構成を捉え、要旨をまとめる。

- 自分の選んだ説明的な文章について、既習を生かし、段落相互の関係や事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章構成図にまとめる。
- 必要な情報に着目し、要旨をまとめる。

3 まとめた要旨を共有し、必要に応じて修正する。

- 自分がまとめた要旨について、筆者の考えがよく伝わるように文章構成と関連させながら説明する。
- 友達と要旨を検討し合い、自分がまとめた要旨や文章構成図を必要に応じて修正する。
- 様々な文章の構成に触れる。

【第3時】まとめた要旨を共有し、必要に応じて修正する学習の例

① 同じ文章を選んだ生徒同士で伝え合い、それぞれの要旨のまとめ方に助言し合う。

筆者の考えの中心は「結論」のまとまりの中にあるので、まずはこの段落の内容を取り出しました。

キーワードの説明になっているこの部分は入れた方が、筆者の説明の意図が伝わりやすいのではないかな。



具体例が書かれてあるこの段落の内容も付け加えた方が、もっと考えがよく伝わると思うよ。

この部分は話題提示で、読み手の関心を引く役割をもたせているから、要旨からは省いて短くできるのではないかな。

② 助言を参考にして、自分の文章構成図と要旨を検討し、必要に応じて修正する。

③ 違う文章を選んだ生徒同士で伝え合い、感想を交流する。

どの文章も、いくつかの大きな意味のまとまりで構成されているので、それぞれの文章全体の中での役割を捉えることが必要なだね。



自分の選んだ文章は双括型だったけど、尾括型の文章もあるね。初めて読む文章の言いたいことをつかむのに、目の付け所にできるね。

ポイント① 効果的な ICT 活用

- ・文章構成図をタブレット端末等を使って作成し、共有することで、交流の際に互いの作成したものを比較しやすくなります。
- ・まとめた要旨の修正がしやすく、修正の前後を比較して振り返ることも容易になります。

ポイント② 既習の教材の活用

- ・小学校の教材も使用し、小学校から中学校への学びの接続を意識しています。
- ・様々な説明的な文章の構成の違いについて、焦点を絞って比較することが可能になります。